



日本のガールスカウト運動100周年！ コロナ禍の中、 支えてくれる皆さんへ ガールスカウト第13団感謝の思い

世界150の国と地域で1千万人が活動する「ガールスカウト」。公益社団法人ガールスカウト日本連盟では、「少女と若い女性が、自身と他の人々の幸福と平和のために責任ある市民として自ら考え、行動できる人になれるようにする」ことを使命に、人との関わり合いを持ちながら自己判断力を身に付け、行動を起こせる人材を育成しています。

1910年イギリス発祥のガールスカウトは、世界中に広まり、1920年には日本でも活動が始まりました。現在は、国内4万人のガールスカウトが、野外活動や教育・環境学習のほか、施設訪問などの福祉活動まで幅広く活動。市内では、南部地区を中心に活動する第13団（会員25人・安藤愛美^{かなみ}委員長）と山之口町や高城町、三股町を中心に活動する第22団（会員24人・永吉清美団委員長）が地域とのつながりを大切にしながら、活動しています。

ガールスカウト日本連盟では、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けた今年、5月22日のガールスカウトの日になんで、「ステイホーム」を支える人々へ感謝の思いを伝える「ありがとうの輪」を実施しました。

第13団では、多くの人の目に触れるようにと感謝の思いを込めたポスター作成を独自企画。小学3年生から高校2年生までのメンバー12人が医療従事者や学校の先生などに向けて「たくさんの人を救ってくれてありがとう」「宿題の準備をありがとう」など、感謝の思いを込めたポスターを作成し、市役所や市内の病院などに掲示しました。

ガールスカウト活動歴10年の新留



県外で頑張っているメンバー



パープル・ライトアップ 2019In 県庁前



クリスマス会の様子



避難所訓練でテントを組み立てるメンバー



野外活動でモンキーロープ体験



「活動が制限される現在も、第13団では、女性目線での防災アンケートや災害時の夜間避難を想定した防災ナイトハイクを実施するなど、今できることを考え、将来のリーダーを目指すチャレンジを实践。

上原リーダー長は「ガールスカウトは、少女と女性のための団体。ガールスカウトの日々の生活の中に深く根付いた行動の指針である、'よくそく'と、'おきて'を心にしつかり留めて、地域とのつながりを大切にしながら、リーダーシップと社会を変える力が育てられるよう、団員と共に学んでいきたい」と今後の活動に意欲をみせていました。

「ポスター作成を通して、相手を思いやる気持ちを持ち、自ら考え仲間と行動する力を身に付けることができたと振り返ります。

「けやきさん（都城西高2年）は「いつも最善を尽くしてくれる医療従事者に向けて感謝の気持ちを綴った。掲示されたポスターを通して、多くの人に気持ちを伝えることができてよかった」と、活動の手応えを話していました。指導者として第13団に所属する上原みゆきリーダー長は「ポスター作成を通して、相手を思いやる気持ちを持ち、自ら考え仲間と行動する力を身に付けることができたと振り返ります。」